

オーブン カレッジ

2024年10月27日に日本では衆議院総選挙が実施されましたが、イギリスでも今年7月4日に総選挙が行われました。その結果、イギリスでは労働党が650議席中411議席を獲得して勝利を収め、14年ぶりに与党が交代することになりました。今回は少し時をさかのぼって、14年前に労働党から保守党に与党が交代するにいたった背景の一端を、主に対外関係と経済の視点から概観したいと思います。

1997年に成立したブ

政権交代の行方

タンへの攻撃を行いました。しかし、このような対アメリカ姿勢をめぐってはイギリス国内で批判的な世論が高まり、2003年2月にはイラク戦争開戦に反対する大規模な反戦デモが行われました。しかし、ブレア政権がアメリカを支援する姿勢は変わらず、03年3月、イギリスはアメリカとともにイラク戦争に突入しました。

EUとの関係については、以前の寄稿(23年9月6日付「欧州統合の進展と英国」)でもふれましたが、ブレアは、サッチャー(およびその後継首相となったメイジャー)よりもヨーロッパ統合に対して積極的な姿勢を示しました。しかし

ービス部門の拡大と発展がみられました。ロンドンにはEUとEU以外の地域をつなぐ役割を果たし、国際金融の中心的な拠点として機能していました。しかし、07年に起こったサブプライム危機、翌年08年に起こったリーマン・ショックによって、イギリスの金融部門は大きな打撃を受けました。リーマン・ショックに際して、ブラウンは金融機関へ公的資金を投入すること

とをすみやかに決断し、労働党への支持率は一時的に上昇しましたが、経済の停滞が続いて支持は激減しました。09年6月の地方選挙と欧州議会選挙で労働党は敗北し、10年5月の総選挙においても、労働党は大幅に議席を減少させて第二党に転落しました。この選挙において議席の過半数を占める政党はなく、第一党となった保守党と第三党の自由民主党による連立政権が誕生し、保守党党首であったキャメロンが首相に就任しました。そして、キャメロン政権下で、EU離脱を問う国民投票が実施されることになりました。

レア政権もアメリカとの関係を重視する姿勢を維持し、イギリスはアメリカとともにイラクやアフガニス



名古屋市立大 学大 学院
経済学 研究科 准教授
木谷 名都子

英国はいずれの 道を進むのか

ユーロへの参加をめぐっては政権内で意見の相違が見られました。ブレアはユーロ参加に積極的でしたが、蔵相ブラウンは消極的でした。さらにイラク問題をめぐってドイツやフランスとの軋轢が深まり、国内でも労働党への支持率は低下しました。07年5月にブレアは辞任を表明し、ブラウンが首相に就任しました。

14年ぶりの労働党政権の下で、イギリスはEUとの関係をどのように築きなおしていくのでしょうか。アメリカでも大統領選挙が実施され、トランプが再び大統領に就任することになりましたが、今後の英米関係はどのようなふうになるのでしょうか。政権交代の行方

きたに・なつこ 外国経済史。

大阪外国語大学大学院言語社会
研究科博士後期課程言語社会専
攻修了・博士(学術)。197
4年生まれ。

降、イギリスでは金融・サ
ツチャー政権下における
金融ビッグバンの実施以
方